

〈人権講座〉参加者の声

落語で学ぶ『人権高座』

～ 笑いの中で考える人権 ～

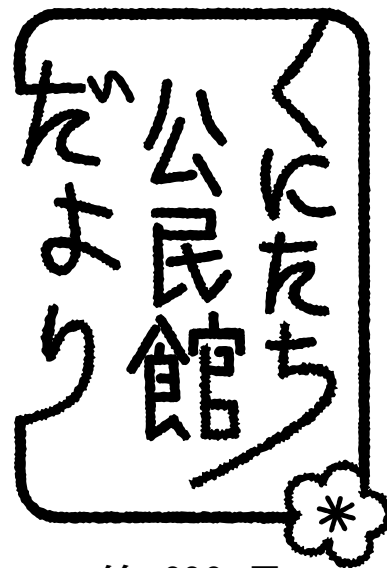
昨年11月17日(金) 落語家の露の新治さんをお招きし、“落語”という親しみやすい切り口から直接的差別・間接的差別・部落差別などについてお話しいただきました。今回は参加された井上さんに感想を寄せてもらいました。

また、3月に行われる人権講座のご案内も下記にあります。ぜひご参加ください！

人生に一番大事なのは「笑い」だと露の新治師匠。人間国宝桂米朝師匠の言葉「一笑一少一怒一老」を紹介し、「ひとつ笑えばひとつ若返る、ひとつ怒ればひとつ老いる」、すなわち、笑うことで健康につながり、若々しくいられるということだそう。確かに昔から「笑う門には福来る」という。とりあえず笑ってみると笑うことで笑えてくるから不思議だ。笑いの無い生活にならないように気をつけようと思った。

そして、次々と大きな紙を取り出し人権についての話になった。まずは、生まれ(血筋)による差別がいかに意味のないことを教えてくれた。先祖を33代さかのぼるとなんと85億何千万人という親の数に行き着くという。4、5代

「人権落語」をきいて
井上 恵子



第 696 号

2018年2月5日
(平成30年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日



“笑”という字は笑っています

師匠は「被差別(差別される側)」に対し「加差別(差別する側)」という言葉を出された。私は初めて聞く言葉だった。世の中は、被差別に対し注意をすることがあるが、差別というのはされる側が気を付けることではなく、す

さかのぼって16人だ32人というのでも「へー」と思うのに、この数字を聞くと皆どこかでつながっているというより、重なっていることがわかる。したがって、どこで生まれてどこで育つて先祖が誰だということからの差別の無意味さを感じる。この気持ちが全ての根っこだと思う。

〈人権講座〉

ジェンダーによる暴力を考える

セクハラ・パワハラ・性被害のない社会に向けて

講師 吉田 容子

(弁護士、世界人権問題研究センター研究員)

昨年から世界では、「#MeToo(私も)」というハッシュタグと共に性暴力被害にあった女性たちが声をあげる動きが起きています。また国内でもセクハラ等を告発する動きもあります。男女を問わず、ジェンダーを理由に起きてしまう暴力……その背景には一体何があるのでしょうか。また、問題の解決のためには何ができるのでしょうか。目を背けがちな問題かもしれませんが、世界で日常的に起きているジェンダーによる暴力を考えてみませんか。

と き 3月1日(木) 夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室

定 員 35名(申込先着順)

申込先 2月13日(火) 朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

る側がやめるべきことなのだ。改めて「そうか」と納得したのであった。この話の説明で、地域による感覚の違いの面白い例を出された。痴漢防止の標語だ。東京では「気をつけよう 甘い言葉と暗い道」、大阪では「チカン アカン」と誠に判りやすい。これは呼びかける対象をどこにおくかである。被害者なのか加害者なのか……これはもしかしてやさしさや真剣さの表れなのではないかと思った。こんな例がまだ沢山あるのではないかと知りたくなった。



落語も堪能しました

く楽しく聞いたが、その中にもちゃんと気づきがあった。もっと沢山の方に聞いてほしいと思った。説明にお使いの紙類のボロさ加減に師匠の気持ちをみた気がした。



から揚げときんぴらが好評

青年講座を企画して

加藤 里歩

なってきた。昔の常識が今の非常識ということも多々あるけれど、それらを知ること、知ったとしても意識を変えることが難しいのもまた事実。

だからこそ、一つの情報だけを鵜呑みにせず、常に新しい情報を求め続けることが必要だろう。

公民館でお世話になっている社会教育実習生3名で青年講座を企画させていただくことになりました。そこで、自分ひとりではなかなかバランスの取れた食事をつくらない若い世代の方を対象に、安く！簡単に！をモットーとしたお

弁当作りの講座を実施しました。「栄養バランスが取れている」「調理が簡単にできる」、そして「みんなでつくりながら各々で個性が出せるお弁当になる」ようにという三つの点を考慮し、から揚げ、卵焼き、きんぴらごぼう、ブロッコリーのチーズ焼き、おにぎり、うさぎさんりんごをメニューとして考案しました。特にから揚げときんぴらごぼうは、一人暮らしではなかなか作らず、意外と作り方も知らないという声が上がリ、火加減などに苦労しながらみんなで協力して作りました。

<青年講座>みんなでウチカフェ！ ～春の和パフェをつくろう～

同世代の仲間とわいわい話しながら楽しく料理をする講座です。今回は抹茶マフィンや三色だんごを重ねて「春の和パフェ」を作ります。

前回来てくれた方も、今回興味を持ってくれた方も、わいわい楽しく一緒にお菓子を作りませんか？ 公民館でお待ちしております！

と き 3月18日(日)夕3時～6時半
ところ 公民館 3階実習室
持ち物 費用300円、エプロン(ない方にはお貸します)
対象・定員 中学生から30代までの方 10名
申込先 2月16日(金)朝9時～
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1
✉ sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

* 公民館では、しょうがいしゃ青年教室など様々な活動にボランティアの青年が関わっています。「青年講座」は、そんな若者たちが企画した講座です。



中学生から大人まで幅広く参加

年講座が参加者の方にとっても楽しい交流の場となったことに、企画した一人として大きな喜びを感じています。



深く、じっくりと

10月19、26日実施 江戸への招待 『武士の暮らしと懐事情』 の講座を見聞して

上田 邦雄

この講座は二回にわたり行われました。第一回目の座学では、江戸中期には江戸が百万都市であったこと、城下町には大名や御家人の屋敷が並び、五十万人の武士と五十万人の町人が住んでいたことを学びました。第二回はフィールドワークで、古地図を片手に江戸の町を楽しく散策しました。引率は第一回に続いて、江戸文化研究者で著名な菅野俊輔氏で、ジョークを交えながらの案内でした。秋晴れの10月26日、街道の基点である日本橋に15名が集合し出発しました。まずは日本橋川に沿って通りを進み、現在の町名日本橋一

講座参加者の声

7月から12月にかけて開催した講座の中から、4つの講座に参加された方の感想文です。今後も公民館では多彩な講座を企画しています。毎月5日に発行されるこの「くにたち公民館だより」にてご案内しています。是非ご参加ください。

今回は

11月30日実施
12月3日実施
10月19日、26日実施
7月～12月実施

図書室のつどい『暮らしのなかの怪しい科学』
青年講座『みんなでつくろうウチごはん』
江戸への招待『武士の暮らしと懐事情』
朗読講座『ことばを楽しむ』

です。



参加者も興味津々のようす

11月30日実施
〈図書室のつどい〉
科学と二十科学、
怪しいのはどっち？
杉本 敬太郎

とある科学館で解説のボランティアをしている時に知ったのが、今回の講演者の左巻さん。「ニセ科学」とか「似非科学」と、手厳しい言葉で科学の皮を被った非科学的な事柄に対して、警鐘を鳴らし続けている急先鋒として認識していたが、そのきっかけがあつた悪名高き「水からの伝言」(波動教育社)であつたというのは象徴的だった。

何故ならば、科学的な基礎知識

がまだ乏しい小学校の教育現場にまで、「ありがとう」といったきれいな言葉を書いた紙を貼った器

の水は、きれいに凍るなんていう非科学的なことが、まるで科学的に正しいことのように入り込んでしまった例だったからだ。そして、それらを信じる教師や親を、「何と無知なんだ」と思っていた面があつたのだが、今回左巻さんの話を聞いて、科学リテラシーという科学知識を積極的に身につけて、判断する能力を上げれば解決できるという、単純なものではないということが分かった。

『水からの伝言』のように、ニセ科学を普及する人たちは、それを金儲けにしているため必死だという。だから、少しでも科学的な雰囲気醸成して権威付けをすることで、その権威にすがりたい人に対する商売が成り立っているという。そうなることは非常に難しい話。

そのすがりたい人たちというのは、例えば末期がんの患者であつたり、そこまではなくとも、健康でありたいという人たちが全てがお客となってしまうのである。更には、それらを増長するのが際限なく放送される、健康をテーマにしたテレビ番組やCM等である。

講演の中では、医療ですらない民間療法にすがって死期を早めてしまった例として、著名人の話が



怪しい科学は尽きることがない？

出ていたが、民間療法に頼る人の話は跡を絶たない。では、このようなことを避けるにはどうしたら良いのか。左巻さんの答えは明確だった。1、たった一つのもので、あらゆる病気が治ったり健康になったりする万能なものはない

2、お金が掛かり過ぎるものはおかしい

3、ネットや本などでまともな情報を調べてみる

ということ。でも、分かっちゃいるけれど、当事者になったら、薬をも掴み取らなくなるのが人情。普段は持っている高い安いのお金感覚だって、金に糸目は付けぬという気持ちになるだろうし、最近ネットの世界で起こった、健康情報のまとめサイトでの無責任情報の掲載事件を考えると、何がまともな情報なのかを判断するのも難しく

〈わたしたちのワークライフバランス〉第2回
本当の「働き方改革」のために
“働く側”がすべきこと
～非正規雇用の問題と労働組合の役割～

講 師 本田 一成（國學院大學・経営学）
コメンテーター 富永 貴公
（都留文科大学・社会教育学、ジェンダー研究）

「働き方改革」という言葉が、昨今のニュースを賑わせています。労働時間の短縮や効率化などを掲げ、「プレミアムフライデー」という施策も始まりました。しかし、その機運は高まっているものの、実態はどこまで改革が進んでいるのでしょうか。

主に非正規雇用の「主婦パート」の実態を見続けてきた本田一成さんは、「今の改革はあくまで企業主導」、働き方改革に必要なのは「働く側が力を持つこと」であり、そのために「労働組合の存在がカギになる」と言います。

今回は、企業から正社員なみの貢献を求められているにもかかわらず、歪んだ社会保障制度が作り上げた低賃金・低待遇のもとで放置されてきた非正規雇用の問題に焦点をあて、立場の異なる専門家の意見・質問を交えながら、「働き方改革」のこれからを考えたいと思います。

〈本田さんの本〉
『チェーンストアの労使関係』（中央経済社）、『主婦パート 最大の非正規雇用』（集英社）など。

と き 2月18日（日）朝10時～12時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名（申込先着順）
申込先 2月7日（水）朝9時～
公民館☎（572）5 1 4 1

三原色で描く
キミ子方式水彩画展

講座「シルバー学習室 第38期」の水彩画展を行います。三原色（赤・青・黄色）と白の絵の具で誰でも絵が描ける“キミ子方式”で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。

＊「シルバー学習室」は市内に住む概ね60歳以上の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、高齢者問題などを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、受講者同士の交流・仲間づくりをしていく講座です。

期 間 3月6日（火）～11日（日）
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
連絡先 公民館☎（572）5 1 4 1
障害者センター☎（573）3 3 4 4

〈図書室のつどい〉
A I（人工知能）の現状と展望
～自動運転車、ディープラーニングなどを中心に～

お 話 小林 雅一（作家、ジャーナリスト）
A I（人工知能）が世界的な関心を集めています。自動車や家電製品から工場管理、金融、軍事まで多方面への効果が期待される一方、「A Iの暴走」「A Iが私たちの雇用を奪う」果ては「超越的進化を遂げたA Iが人類の生存を脅かす」との非常な関心や危機感を煽る報道なども見受けられます。
今回は自動運転車や医療への応用を例に、ディープラーニングなどといわれるA Iの中身（技術）にまで踏み込んで、その実態を分かり易く解説いただきます。A Iが私たちに何をもたらすのか、その意味を考えたいと思います。

〈小林さんの本〉
『A Iが人間を殺す日』（集英社）、『A Iの衝撃 人工知能は人類の敵か』（講談社）ほか多数。

と き 2月17日（土）昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名（当日先着順）
＊申し込みは不要です。ご自由においでください。

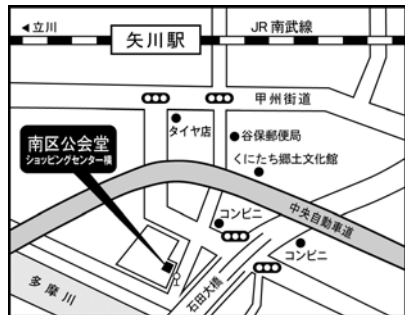
く に た ち 野 鳥 観 察

講 師 佐伯 元行（国立あおとり保育園 園長）
中島 徹也（くにたち探鳥会）

冬は野鳥観察に最適の季節です。12月はスライドを見ながら座学、1月は城山周辺で野鳥観察をしました。今回は多摩川周辺で野鳥観察を行います。
寒い季節ですので、あたたかくしてご参加ください。皆さんと一緒にくにたちの鳥を観察してみましょう。

◆2月18日（日）朝9時30分～12時頃
多摩川周辺（観察会）

集合・解散 南区公会堂前
持ち物 筆記用具、お持ちの方は野鳥図鑑、双眼鏡等
定 員 15名（申込先着順）
＊雨天の場合は3月4日（日）に順延します。
申込先 2月8日（木）朝9時～
公民館☎（572）5 1 4 1



江戸時代にタイムスリップ

から同心番所、百人番所を横目に進むと芝生が一面に広がる場所に着きました。その一帯は本丸御殿があった場所、表・中奥・大奥の三区域から成り、その奥には天守がそびえていたそうです。本丸御殿の広さは約三万五千坪で東京ドームの約2・5倍の強大な建物であったそうで、その中には忠臣蔵の刃傷事件の「松の廊下」があり想像をかきたてるものでした。そして今は一部の石垣しか残されていない天守台の跡地から一望すると、現在は高層のビル群に遮られています。江戸時代には町並や東京湾まで一望でき、さぞかし壮観であったと思われます。最後は大奥の人々が出入りしていた平川門から出ました。あまり知られていないようですが、この門の隣には、城内で犯罪をおかしたり亡くなった人の出入口としての不浄門が存在していました。散策の解散所は「御春屋跡（米など精米する所）」で、現在は毎日新聞社ビル前でした。
約3時間の散策はあつという間に過ぎました。歩いて見て江戸はまさにワンダーランドであり、武士と町民が融合し、あらゆる分野で発展していた大都市であると思感させられました。
講師のユーモアに溢れた楽しい

以前、朗読を習ったことがあります。でも今一つ「楽しむ」までには至りませんでした。今回は、講師の石井和子先生のプロフィールに心が動きました。
アナウンサーにして気象予報士、『源氏物語』を気象で読み解く研究家……きつとユニークな引き出しを一杯お持ちでしょう。ワクワクしながら参加しました。ね
お茶目な笑顔で口跡美しく「ね



発声練習は念入りに

え、私ってしつこいでしょ」と熱心に指導して下さる石井先生。先生のマジックでしょうか。ストレッチ、丹田を意識した呼吸法、滑舌、鼻濁音の練習等、高校の朗読クラブ？の様にコツコツとトレーニングに励む私たちでした。その一つ「アイウベー」と言いながら「ペー」で思い切り舌を出す舌根の筋肉もやわらかくなり、お口周りの老化防止にも役立つそうですよ。皆さんもぜひお試しください。
いよいよ発表会に向けて、吉永みち子さんのエッセイ『母の写真』、安房直子さんの童話『きつねの窓』を22人で分担することになりました。私は『きつねの窓』の後半です。その中に「――そして、そのおくに、ぼんやりと、なつかしい庭が見えてきました。――」という文章がありました。石井先生から何度も「どんな庭が見えている？」と問いかけがありました。確かに何のイメージもなく読んでいたのです。
「あつそうか、なつかしい庭なんだ！」。私にとつてのなつかしい庭と言えば、祖母が仏壇に供える花を四季折々で育てていた、田舎の家の裏庭です。白い手拭いをかぶった祖母が手入れしていたっけ。金魚草、小菊、リンドウ……。



みんなで物語をつなげます

次第にお話の中の庭のイメージもまぶたに浮かぶようになりました。石井先生の言葉から「庭」という活字が具体的にイメージされた空間に変身、主人公のまなざしでその場を語ることができたように思います。忘れられない体験となりました。
講座の最終回から発表会まで間があり、自主練習も……。まさに「朗読女子、発表会に向けGO！」でした。発表会は沢山のお客様と一緒に『外郎売』を読んだり、石井先生の『祝婚歌』の朗読あり、サプライズで一杯。発表会を観に来てくれた友人からは「久しぶりにお腹から声をすっきり出しました」とメールが届きました。
石井先生、講座のお仲間の皆さん、楽しい半年間ありがとうございました。

ひ 3 ば

(8 ページにもあります)



梅は咲いたか

和 賀 一 (西)

新しい年が明けました。社交ダンスで気持ち良い汗をかきませんか？プロA級の女性講師による丁寧な指導で和気あいあいとレッスンします。自主練習あり見学自由
日時 金曜日夜7時～(月3回)
場所 福祉会館 大ホール
連絡先 伊東 (575) 7231
ゆつくり新たな一歩 郷土俳句会
「療」代表代行の岡山祐子先生の常に前向きな指導を受け昨秋十周年を迎えました。明るく優しく親切をモットーに句会を楽しみます。初心者再挑戦者歓迎します。
日時 毎月第二月曜日昼12時半
場所 郷土文化館 第一研修室
連絡先 石川 (575) 3285

「辺野古ゲート前の人々」上映
山城さん(沖縄平和運動センター議長)のお話と宇都宮健児さん(元日弁連会長)との対談。同実行委・ピースリーディング結其催
日時 2月17日(土)昼1時
場所 公民館 地下ホール
連絡先 上村 090 (181) 8371
第219回くいしんぼクラブ
ナットさんのタイ料理
トムヤムクン、春雨のサラダ、タピオカのデザートを習います。材料費800円。ゴミ袋とふきんをご持参ください。
日時 2月17日(土)昼1時
場所 福祉会館 料理講習室
連絡先 八宮 (571) 1007

〈認知症とともに生きる〉 「暮れなずむ脳」とは ～内と外からみた物忘れと認知症～

お 話 内原 俊記 (東京都医学総合研究所)

認知症は誰もがなる可能性のある病の一つですが、メディアなどからの情報によるうっすらとした理解に留まり、正確な理解が社会的に共有されているとはいえません。そこで今回は、加齢と病気との境目がわかりづらい「認知症」という疾患の特徴や、中核症状と周辺症状の違いについてなど、「暮れなずむ脳」の変化を脳病理学の立場で研究されてきた内原さんにお伺いします。「暮れなずむ脳」の加齢のありかたをふまえ、老化と認知症との関係をみなおしたいと思います。どなたもお気軽にご参加ください。

と き 3月8日(木) 昼1時30分～3時30分
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*申し込みは不要です。ご自由においでください。

新たな健康作りくにたち吹矢35
腹式呼吸法をベースに肺機能、内臓の諸器官にも良い影響を与えるスポーツ吹矢。生涯スポーツとして、新たに始めてみませんか。老若男女どなたでもチャレンジ！
日時 毎週火曜日夜6時～8時
場所 総合体育館 3階
連絡先 坂井 090 (249) 9175
ターゲットバードゴルフご案内
ゴルフを手軽に国立市内でプレイするには？ターゲットバードゴルフが有ります。PWクラブ一本で18ホールを廻ります。気軽に谷保公園に来て下さい。
日時 毎週木曜日昼12時～3時
場所 谷保第三公園他
連絡先 岡田 (575) 1358

新しい合唱団誕生…団員募集中
練習に時間を掛けて歌い込む合唱団TANTO・CANTAREが開設準備中。指導・石原章弘・モーツァルト戴冠ミサ。毎月第2・3・4土曜。練習費月2千円。
日時 2月10日(土)夜6時半
場所 福祉会館 4階他
連絡先 石原 (575) 3923
くにたち国際友好会WING
二月の国際理解講座は「社会と経済の面から見る中国の最新事情」のテーマで「橋大学商学研究科博士課程に在学中の顔菊聲さんに講演していただきます」。
日時 2月15日(木)夜6時半
場所 一橋大学 国際交流会館
連絡先 和田 090 (349) 2110

「今、沖縄で起きていること」

「辺野古ゲート前の人々」上映
山城さん(沖縄平和運動センター議長)のお話と宇都宮健児さん(元日弁連会長)との対談。同実行委・ピースリーディング結其催
日時 2月17日(土)昼1時
場所 公民館 地下ホール
連絡先 上村 090 (181) 8371
第219回くいしんぼクラブ
ナットさんのタイ料理

トムヤムクン、春雨のサラダ、タピオカのデザートを習います。材料費800円。ゴミ袋とふきんをご持参ください。

日時 2月17日(土)昼1時
場所 福祉会館 料理講習室
連絡先 八宮 (571) 1007

公民館運営審議会報告
1月9日(火) 第15回定例会を開催。委員14名、館長 職員 2名出席。傍聴者2名。
前回議事録確認
報告事項
○公民館だより編集研究委員会12月号の「ふりかえる会」告知記事・チラシに関し、多くの市民への呼びかけとしては内容に課題が指摘された、との意見(一因に検討する時間的余裕がなかったとの反省も)
1月号、市政50周年記念イベント学長対談記事は不参加者にも内容が伝わりよかった等
○社会教育委員の会
取り組んできた生涯学習推進計画について具体化のための意見を交換し、まとめている状況
○東京都公民館連絡協議会
2月実施の都公連研究大会の打ち合わせ、各市公民館の抱える問題点など情報共有した。
協議事項
1月7日(火) 開催した「ふりかえる会」について各委員からの感想を述べあう。職員の担当講座に対する熱意が披露された。市民とのディスカッションは、職員・公運審委員にとっても良き研鑽の場となった。市民の学びを振り返る場面に課題が残った等々。総括して今後にどうつなげるかは次回以降へ。
国立市公民館の職員体制の充実を求める要望書案について協議。
次回定例会は2月13日(火) 夜7時15分から。傍聴歓迎。
(今村)

〈ドキュメンタリー映画上映会〉 『さとにきたらええやん』

監督 重江良樹 2015年 カラー 100分

日雇い労働者の街といわれる大阪・釜ヶ崎で40年続く子どもたちの集いの場「こどもの里」を舞台に、人々の奮闘を描くドキュメンタリー映画の上映会です。

「こどもの里」とは、1977年設立の「子どもの広場」を前身とし、1980年に現在の場所で開設されました。それ以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、そして長期的な養育を行う里親としての機能も持っています。

「こどもの里」の取り組みを通して、そこに来ている子どもたちや釜ヶ崎という街のあふれ出る魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関わり、取材をはじめから足かけ7年、初監督作品として本作を完成させました。今回は重江監督もお招きし、上映後に撮影秘話や子どもたちのその後などを伺うトークイベントも行います。

「子どもの貧困」に関心が高まる今日、いま求められている“居場所”の原風景がここにあります。

〈上映後のお話〉
重江 良樹
(監督)



大阪・釜ヶ崎「こどもの里」

と き 3月11日(日) 昼2時～5時
ところ 公民館 地下ホール
定 員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈公民館の窓〉
社会全体で子どもを育て、守る
ナナメの関係
月の第一週を除いた毎週水曜日の午後6時から8時まで、公民館で中高生のための学習支援「LABO☆くにスタ」(LABO)が行われています。勉強を教えるのは大学生で、学校とは違った雰囲気です。子どもたちは勉強ができます。そんなLABOでの大学生たちの素晴らしいところをご紹介します。素晴らしいところも分らない問題に出会ったとき、「これは難しいね」と共感し、他の大学生と一緒に解き方を聞きにいったみんなが悩みます。それに、みんな聞き

上手です。他の人の勉強の邪魔にならないのであれば、おしゃべりは自由なので、「勉強する気になれないときもあるよね」と雑談することもあります。
私は今年度の5月からLABOの担当になりました。関わる大学生たちが子どもたちにとって身近な憧れの存在になって欲しいと思っています。ひょうきんな私を見てこんな大人でもなんとかなるんだと安心して欲しいと思っています。
若さとはすごいもので、未来しかありません。その未来がもっともっとおもしろくなったら良いなと思うから、子どもたちにみんなの背中を見ておいて欲しいです。
(Y・I)

〈シネボックス シネマトーク〉

映像で見る1964 東京オリンピック前後

【上映作品】

『家庭の年輪』 桜映画社 1965年 カラー 64分
監督 堀内甲 製作 村山英治
脚本 千葉茂樹、堀内甲 音楽 間宮芳生
出演 小峰千代子、山田巳之助 ほか

【同時上映】

『オリンピックにそなえて』
東京都映画協会・都広報室 1964年 白黒 10分

『1965年にかかる一新しい東京へのいぶき一』
東京都映画協会・都広報室 1965年 白黒 20分

1964年――東京オリンピック開催に日本中が湧く一方で、急激な社会の変化によって人々の生活には様々な問題が発生してきた……。当時新しい生活様式だった団地を舞台に、時代の変化に取り残されていく老人たちとその家族の姿をリアルに描き、家庭や家族の在り方を問うた秀作『家庭の年輪』と、当時の社会状況を伝える記録映画から、高度経済成長期の光と闇に迫る。

《お話》北里 宇一郎(脚本家)
*上映終了後、脚本家の北里宇一郎さんにお話をうかがいます。

と き 2月25日(日) 昼2時～5時(開場昼1時)
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」第4回

日 時 3月19日(月)〈雨天中止〉
集 合 谷保駅北口 朝9時
実施方面 笹塚から千駄ヶ谷方面
(距離：約12キロ 高低差なし)
対 象 市内在住、在勤者
*行程はウォーキング初心者向けです。
チ ラ シ 2月14日(水)から
市役所3階生涯学習課、市民総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。
申込方法 チラシの内容を確認のうえ、
(日程、コース、申込方法等)
2月15日(木)から28日(水)の期間に下記までお申し込みください。
申込・問合先 教育委員会 生涯学習課社会体育担当
☎ (576) 2107 (直通)

今月の公民館 (2月、3月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 17日(土) 昼*図書室のつどい
A1 (人工知能)の現状と展望
- 18日(日) 朝 くにたち野鳥観察
- 18日(日) 朝 わたしたちのワークライフバランス
本当の「働き方改革」のために「働く側」がすべきこと
- 25日(日) 昼*シネボックス CINEVOXシネマトーク
映像で見る1964 東京オリンピック前後
- 3月1日(木) 夜 人権講座
ジェンダーによる暴力を考える
- 6日(火) ~*三原色で描く キミコ方式水彩画展
- 8日(木) 昼*認知症とともに生きる
「暮れなずむ脳」とは
- 11日(日) 昼*ドキュメンタリー映画上映会
『さとにきたらええやん』
- 18日(日) タ 青年講座 みんなでウチカフェ!

憲法とわたしたち連続講座No.50
今回は第一条象徴天皇、第九六
条憲法改正について。講師 西川
重則氏(国立市在住)『わたした
ちの憲法』前文から第103条まで
いのちのことは社、資料代500円
日時 2月17日(土) 昼2時~5時
場所 公民館 和室
連絡先 実行委員会(574) 9210

硬式テニス春季大会
男単・複AB・女単・複AB・
男・女壮年複・家族混合・男女小
学生単。詳細はHP参照。締切3
月1日(木)。申込テニスサライズ
http://www.kunitachicennis.com/
日時 4月1日(日)~6月17日(日)
場所 広場コート
連絡先 河守(573) 7782

ひろば

(7ページにもあります)

くにたち混声合唱団・ときわ
第41回定期演奏会

モーツァルト「レクイエム」、
「春に」信じる」等の邦人曲他
ポップス等をお楽しみ下さい。
(旧称・混声合唱団国立立ときわ会)
日時 2月18日(日) 昼2時開演
場所 調布市文化会館たづくり
連絡先 深町090(8592) 2444

公民館図書室 休室のおしらせ

3月5日(月)から8日(木)まで
本の点検・整理のため休室します。

*新聞は、朝9時~夕方5時の間、2階事務室前で
閲覧できます。(公民館休館日の月曜日を除く、
3/6~3/8)

訂正箇所	訂正箇所
・5ページ 下段右「ゴ ルポールをやつてみよ う!」本文6行目	北京オリンピック
・6ページ 上段「公民館 のQ&A」左段 本文2 行目	北京パラリンピック
・1951(昭和31)年 1956(昭和31)年	公民館

〈サークル訪問317〉 くにたちさくら組

毎週日曜、大学通り遊園で開催
されているワークショップを覗く
と、すでに活動が始まっていた。
現在の中心メンバーは3名だが、
当初から子どもたちも加わり、十
数人の協力メンバーがいる。取材
当日も、前回初めて来たという方
が再度参加され、メンバーの知人
という外国人の男性が初参加で、
熱心に箸を削っていた。

「くにたちで伐採されたさくら
に触れながらお箸やコースターを
作る」というさくら組の呼びか
けを、市報や環境フェスタなどで
目にした人は多いはず。だが会が
発足したきっかけが、2015年
のくにたちアートビエンナーレだ
とはあまり知られていない。

大学通り緑地帯の立ち枯れた山
桜をめぐり、伐採後の再利用では
なく、まちの文化のテーマとして
議論し、取り組むこととなった。
ビエンナーレ終了後も活動はさら
に広がり、さくら通りの工事で伐
られた桜を引き受けている。伐採
された木は谷保緑地へ運び、ベン
チなどに加工したあとは、出来る
だけ生えていた元の場所に戻すよ

うにしているとか。

「桜だけでなく、木の命を大切
にするということは、人の命を大
切にすることにつながる。専門家
に引き渡すのでなく、だれもが時
間さえあれば自分だけの作品が
作れる、そういう技術を伝える教
材にしたい、というのがさくら組
の考えだ」と大塩代表の話。

印象的なのは、とにかく参加し
ている顔がみんな楽しそうだとい
うこと。木に触れるということ
は命にふれることなのだろうか。話
を聞くよりまず体験がお勧め。私
も絶対参加したい!

日時 毎週日曜朝10時~15時

(雨天中止)

場所 大学通り遊園

(中三丁目大学通り沿い)

連絡先 大塩090(9854) 9192

〈文・写真 佐藤 節子〉



寒さも忘れてとにかく楽しい!